

みんなちがって あたりまえ でも 子育てに 不安を 感じる すべての方へ  
子育て おうえん ちょっと 休憩しませんか？



## 「ミルクティー」

長崎市立村松小学校長 三根 裕一郎  
特支Co 下田 誉子

まずは、あまーいミルクティーを1杯どうぞ。

子供たちは、いつまでも親の言う通りに動いてくれたら、本当に楽ですね。しかし、反抗期というものは、ほとんどの子供にあり、しっかり成長をしている証拠とも言われています。反抗期は親子ともに不安が大きいと思いますが、成長していることの証。親子で成長していけたらいいなと思います。



LD、ADHD、ASD等の発達障害を親として受け入れることは、なかなか難しいことです。しかし、それを放っておくことの方が、子供にとって、辛い結果を生むことになる場合もあります。適切な指導・治療がなされなかった場合、反抗挑発症/反抗挑戦性障害および素行症/素行障害に移行してしまう可能性があります。

反抗挑戦症は、怒りっぽく、口論好き、挑発的行動、執念深さといった情緒・行動上の様式が、少なくとも6ヵ月間は持続することで診断されます。素行症は、他者の基本的人権、または、年齢相応の社会的規範や規則などの侵害を、6ヵ月以上反復、持続する行動様式です。学校では、授業の妨害行動でもあります。どの子も、安心して、安全に学ぶ権利がありますが、それを奪ってしまうからです。そのうち、人や動物に対する攻撃性、嘘、窃盗、重大な規則違反といった反社会性が6ヵ月以上反復・持続することを基本的症状とします。なぜ、そうなっていくのか、集団生活に馴染めない行動が続くことで、友だちや教師から注意を受ける回数は、当然増えていきます。そういうことが長く続くうちに、自尊感情が低くなっていき、この症状に陥ってしまいます。

こうなってしまう前に、保護者・教員・医師というそれぞれの立場の異なる人たちの協力が必要であることは、いうまでもありません。ADHDに起因しないとしても、同じ対応で不十分な場合には、さらなる診療が必要と考えられます。怒って、注意して、罰を与えて、話して止められる段階ではないということです。

話は変わりますが、来年度入学してくる児童の保護者の中には、早くからお子さんに療育を受けさせている方が例年に比べ多くいらっしゃるようです。それだけ、発達障害には、早くの療育や治療をすることの大切さが理解されてきているのだと感じております。

ミルクティーの味は、いかがだったでしょうか。お役に立てれば幸いです。

